

若手農業従事者とのタウンミーティング（要約）

テーマ：農業の未来を考える

令和7年8月20日（水曜日）

【市長】 皆さん、改めましてこんにちは。本日は暑い中、また、農作業の間の貴重な時間にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。本日の開催に際しましては、松山市認定農業者協議会の会長さん、そして、松山市青年農業者連絡協議会の会長さんをはじめ、役員の皆さんには、大変お世話になりました。ありがとうございます。さて、松山市のタウンミーティングですが、私が市長に就任させていただいた当初から開催をしています。市長の任期の1期目は、市内41地区、松山市、旧北条市、旧中島町、合わせて41地区に分かれますが、その41地区を2巡りさせていただきました。2期目からは、先ほど申し上げた地域別のタウンミーティングに加えまして、世代別のタウンミーティング、職業別のタウンミーティングというのをやっています。世代別のタウンミーティングですが、小学校、中学校の皆さんに集まっていたり、また、高校生、大学生、専門学校生、そして、子育て世代の方々、若手社会人の方々、また、人生の先輩にあたるシルバー世代の方々、それぞれに集まっていたり開催しています。また、職業別のタウンミーティングでは、これまでに農業の方々、商店街の方々、また、コロナで経済が影響を受けているときには、経済の実態に詳しい金融機関の方々などに集まっていたり開催いたしました。3期目からは、こちらにも書いていますが、これまで参加された皆さんから「タウンミーティングに行って、松山市の取組を知ることができて良かった。勉強になった。」という声を多くいただきましたので、意見交換の合間に「広報タイム」をとらせていただいて、現地現場で、まさに業務に携わっております市の職員から、市民生活に役立つ情報をご紹介します。現在4期目で、今日のタウンミーティングで、通算145回目になります。いただいたご意見に対しては、できるだけこの場でお答えをして帰ります。また、中には、国とよく話をしなければならぬもの、愛媛県と調整をしなければならぬもの、また、財源的によく考えなければならぬもの、そういったものは、いい加減な返事をして帰るわけにいかんですから、一旦持ち帰らせていただいて、検討した結果を1カ月をめぐり、必ず皆さんにお返ししています。やりっぱなしにしない、聞きっぱなしにしないタウンミーティングが特徴でございます。今日は、皆さんと有意義な意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【参加者】 興居島で農業をやっています。今日はよろしくお願いします。1人1問なんですよ。

【市長】 別に構わんですよ。できるだけまんべんなく皆さんに発言してほしいので、1人1問と言っているだけであって。手が挙がらなかったら、2回3回言ってもらって

もかまんですし。

【参加者】 とりあえず一つ。

【市長】 一つ一ついきましょう。

【参加者】 私、柑橘を作ってるんですけども、例えば、最近、10年ぐらい前から、6次産業化っていうのが言われてるんですけども、柑橘の6次産業化は非常にハードルが高くて入りづらいんです。その中で、僕もいろいろ試してはいるんですけども、一つが、柑橘を使ったお酒を作りたいと思うんですが、現状、松山市さんはなぜか「どぶろく特区」に入っていらっしゃらない。宇和島市さんとか西条市さん、内子町さんとかは入ってるんですけども。ちょっと試作品を作るにしても、お酒を作るっていうのは非常にハードルが高くて難しいので、まずは、松山市さんの方で「どぶろく特区」を申請していただけないかなと思ひまして。ご検討の方、よろしくお願いします。

【市長】 これについては、お答えできることがありますか。

【農林水産振興課長】 どぶろくの特区ということで、なかなか規制というのが、私たちも不安なところがございます、やっぱり、こういったご要望があつて、こういった規制を外すのかをまずお伺ひして、それでまた、そういう規制を外す特区の担当課もございますので、そこと一緒に、今後お話をさせていただいたらと思ひますので、よろしかったら、また農林水産振興課の方までご連絡いただけたらと思ひます。あと、具体的にどういった数量をご予定されてるとか、どういったものをお作りになるのかというようなことも、極力詳しいことが分かれば、ご相談にも乗りやすいかなと思ひますので、よろしくお願いいたします。

【市長】 今、要望として聞きましたので、我々の方で調べまして、こちらからご連絡をいたします。今の意味は、二度手間はさせませんよ、ということです。もう今、要望を受けましたので、私たちが調べて、そして、お答えを返すようにいたします。そして、1カ月をめどに、皆さんにどういうことがお答えをできるのかというのを皆さんにも分かるようにいたします。私の南海放送時代の記憶で言うと、旧の津島町の岩松で、どぶろくやってらっしゃいます。東温市も、どぶろくやってらっしゃいます。今までの私の記憶だと、溝辺の酒造会社さんと組んで、松山の農林水産物でのリキュールだったかな、やってきた例があるんです。確かに、おっしゃるように、6次産業化って大事だと思ひます。私も、それこそ今日1時間半の中で話ができるかなと思ひんですけど、原点に、うち北条なんです、実家が。ほんで、ばあさんが、93歳までかな、ずっと畑に出続けました。家は、田んぼ、畑、みかん畑、みかん山、林業もやってた家です。ですんで、昔、自分もちっちゃい頃、稲木に掛けたりという原体験があつたりとか、南海放送時代に、生産地にずっと足を運んでたのが、やっぱりベースとしてあるんです。ですんで、やっぱりちょっと傷があつたらね、出せんかつたりもあるんで、そういうことはよく分かってるんで。6次産業化、すごく分かるので、何とかできればと思ひますので、同じ思ひです。またちょっと、お返事いたしますので、少々お待ちください。

【参加者】 中島から来ました。よろしくお願いします。私ども個人的に、関西圏のマルシェとかにおいて、紅まどんな、柑橘系の個人販売をしまして、販促活動という形で中島産をPRするという形でちょっとやらせていただいています。それでこの度、先日、うちの妻の方も愛媛県の農林水産レポーターに任命されまして、今の時代ですんで、SNSによる広報活動とか、現地販売でのPR、こうやって自分たちなりに愛媛県産を広めようと、紹介していこうという活動をしています。中島地区におきましては、紅まどんなに関して、ビニールハウスも自分たちで基本的に建てることになっています。松山の方、こちらの陸地部の方でしたら、業者さんとか来やすいんですけども、どうしても賃金の関係とか、船に乗せてこなくちゃいけないんで、ちょっと費用がかさむということで、農家が集まって建てている状況です。ご存知の通り、市単事業がなくなりまして、今、県単事業のみになりまして、ハウスの申請をしても、半分ぐらいはちょっと落ちてしまうという状況になっております。もうこれは致し方がないことではあるんですけども、当中島地区としては、やはり市単事業の復活、これによって資材の納品の時期も、以前でしたら8月、このぐらいの時期からスタートして、年に個人的に2棟3棟建てれるかなっていう、中島地区でも紅まどんなの収量が増えていくっていう形なんですけれども、今ちょっと時期的に厳しいので、皆さん建て控えというか、なかなか申請をしにくい状況になっています。若い子も帰ってきてますんで、これから生産量的には多分増やしていけるとは思うんですけども、以前ほどの補助じゃないにしても、もう少し、時期と予算の関係で、ちょっと融通していただけたらな。これ、松山市全体でもきっと、紅まどんな、まだまだ必要だと思うんですね。ということで、ご検討よろしくお願いします。

【農林水産振興課長】 おっしゃる通りでございまして、島しょ部のいろんなものなんですけども、やっぱり船賃がかかります。私たちの事業でも、DX関係の事業なんかは、こちらの陸地部と比べて、船賃分も加味した補助の制度にはしております。先ほどのビニールハウス等の資材でございしますが、今おっしゃった通り、県費国費の事業を主にしておりますけども、あとは皆さんのニーズといいますか、そういうのもお聞きしたうえで、また、予算の都合がございしますから、市全体のことで、我々がまた財政の方と相談をさせていただいて、ということになろうかと思います。極力ご期待に沿えるように、直接、市の予算を増やさないまでも、いろいろ他に県費国費有利なものがないかということも共有させていただいたらと思います。また、ご要望も具体的にお聞かせいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【市長】 ちょっと教えてください。中島の方では、紅まどんなとかのハウスを建てるときは、どんなにしよるん。業者さんに来てもらう、みんなで建てる。

【参加者】 市単がなくなる前までは、僕のお師匠さんがおって、その方2名ぐらいのチームがあるんですけど、その方たちを中心にみんなが集まって、年間に1チーム2つ

建てたり3つ建てたりっていう形で進めていったんですけども、ちょっと今の県単の納入時期だと、どうしても年末近くになってしまいます。建てたいとか、お金とか、そういう気持ちはあるんですけども、納入時期がどうしても年末になって、建て始めるのが1月になる。でも、柑橘はその時期がピークなんで、なかなか手間が。業者さんも入ってこられるようにはなったんですけども、なかなかちょっと業者さんも嫌がるみたいで、思うようには進まないっていう状態になってますね。

【市長】 ありがとうございます。こういうのが、やっぱり生の声で大きいと思うんです。納入時期のこともあると思います。そんなもう、ただでさえ忙しいときに来られてもな、みたいな、すごく分かります。ちょっと検討させてください。実際、陸地部と島しょ部といましようか、島しょ部はそうなんです。松山市役所って課の数が100課ぐらいあるんですけど、農業に限らず他の工事にしても、島しょ部での工事の代金が「これ結構高いんじゃないの、これどうして」って聞いたら、「いやいや、運ぶ運賃もいますし」って。それは当然だと思います。そういう中で、ちょっと何ができるかっていうのは考えさせていただいたと思います。

【参加者】 ありがとうございます。

【参加者】 北条の若手農業者グループの会長をさせてもらってます。よろしくお願いします。私たちは、日々、自らの経営や技術の向上に努めるとともに、就農支援や地域との連携、若手担い手の育成などにも力を入れて活動しています。そこで、松山市として、私たちのような地域の若手農業者に、どのような役割や貢献を期待されているのかとか、農業振興の中で特に求められている活動や分野はどういうものかなっていうところを聞かせてもらいたいと思って。それと、私たちとしても、現場で見えている課題や提案を行政に届けて、よりよい連携を築いていきたいと考えているので、現場の声を市としてどのように受けとめて施策に反映していかれるのかも聞かせていただければと思います。よろしくお願いします。

【市長】 ありがとうございます。今日がまさにその一つであると考えていただけたと思います。まちづくりでよく言うのが、若者、よそ者、馬鹿者って言うんですね。馬鹿っていうのは本当に馬鹿っていう意味じゃなくて、ちょっと突飛な発想といましようか。今回、これまでも農業されている方々とのタウンミーティングはさせていただいたんですけど、地域別、そして、世代別、職業別って紹介しましたが、言ったら、職業別と世代別のハイブリッドが、今回の若手農業従事者とのタウンミーティングと考えていただいてもいいかなと思います。やっぱり、よくよく考えるんですが、農林水産省の方とも話をするんですけども、今、トランプさんの話とかもありますよね。もう極端な話、貿易やめるぞって言ってしまったら、日本の食だけでやれますかと言うたら、食料自給率のことを考えて、できないですね。でも、やっぱりできるだけ日本での生産っていうのを増やしていくことが大事だと思いますし、やっぱり地産地消といましよう

か、できるだけ子どもたちのそばで生産をされてるっていうことが大事じゃないかなと思います。今、だいぶ私たちが感じるころは、若い方でも農業に対する関心が増えてきていると思いますので、もう皆さんは先達として、そういった、関心を持って入ってくる方に対して、こうだよって悩みを解消するとか、相談に乗っていただけるような、そんなことを皆さんにはしていただければと思います。そして、相談や悩みに乗っていただくだけではなくて、「いや市長、松山市さんにこうしてもろた方がうまいこといくんよ。物事うまいこといくんよ」っていうことがあったら、遠慮なく言ってください。わざと客観的に言いますけど、今の市長は「現地・現場」を大切にする、「市民目線」を大切にするって言ってる市長なんで、皆さんからの声が宝だと思ってるんです。ですので、皆さんからどうぞ遠慮なく言っていただいたら。さっき言っていただいたように、やっぱり島は人件費、資材費の関係で、やっぱりちょっとなかなか大変なんやなとか、時期のこともあるんやなっていうのを改めて教えてもらえるので、遠慮なく言っていただいたらと思います。これまでも、青年農業者連絡協議会や認定農業者協議会をはじめとする農家の皆さんと共有して、できることから国や県に要望していきたい、これからもやっていきたいと思ってます。ですので、遠慮なく、「どうせ市に言うたって変わんのよ」なんて思わずに、皆さんの方で敷居を高くせずに、遠慮なく言っていただいたらと思います。よろしくお願いいたします。

【参加者】 北条の農家です。よろしくお願いします。まず最初に、去年、難波地区でタウンミーティングしたときに要望させてもらった、「新規就農者がどういう手順を踏んで手続きしたらいいかわからない」って言ったことで、ホームページにページを追加していただいて、ありがとうございました。すぐに本当に電話かかってきて、「松山市で農業を始めたい方へ」っていうホームページを作成していただいて、すごいみんな見やすくというか、こういう順番で手続きしたらいいんやなっていうのが分かったかなっていうふうに思います。今日は、地域の担い手、条件の違いからくる担い手の格差というか、差があるなっていうのをちょっと実感してるので、そこをちょっと伺いたいなと思います。僕は北条地区の難波という地区でやってるんですけども、ちょっと条件の良い、例えば庄地区だったら、もう誰々辞めますとか、ここ空いてるってなったら、本当にもう新規の方だったりとか、規模を拡大したい人が、もうすぐに入って農地が埋まってしまったりとかして、なんなら1枚の畑を半分ずつハウスで一緒にしようやっていうぐらい、すごい人気があるんですけど。かたや、ちょっと海側に行った下難波地区とかってなったら、水はけが悪かったりですとか、形が悪いとか、ちょっと大きな道に面してないっていう、ちょっと条件が悪いっていうのがあって、結局、庄だったら取り合いなんですけど、下難波はちょっと押し付け合いみたいな感じで、僕らも結構作らせてもらってるんですけど、そういう差がどうしても出てしまってる。そういうところって、せつかく地域計画とかっていうのでお話してくれたりとか制度があるんですけど、なか

なか要件設定をせずとか、中間管理機構を通さずに、口頭で借りているっていう場合が多いので、その地域計画にも反映されないっていうことで、ちょっと悪循環が出ているのかなっていうのがあるので、そこをどれぐらい認識されているのかっていうのと、できる限り地元の農家さんでやっていきたいなと思うんですけども、そこで一緒にできるようなことを松山市さんにちょっと助けてもらうようなことがあったらなと思ってお伺いしたいなと思います。お願いします。

【農林水産振興課長】 難波のことをございますけども、一定ですね、難波の方でトラクターの機械をそろえたりとか、ビニールハウスを建てたりとか、そういった初期費用の負担を減らすような支援をしています。また、下難波を含む難波地区でございますけれども、平成24年から、これまで16名の方が新たに農業を始められています。でも多分、実感として、離れられる方の方が多いというような肌感といいですか、そういう印象を持たれているんだろうと思います。実際に何人辞められて、何人始められたか。それから、基盤整備の方もあちらの方でしておりますので、まだそれを見ても、やっぱり荒れる農地の方が多いという印象でいらっしゃると思いますかね。なので、私たちも可能な限り、そういったところではやってる。もしかすると、まだ追いついてないっていうようなところはあるかも分からないです。基盤整備につきましても、順によって、いろいろ県内、また松山市内でやってますけども、そういったところから、そういう農地の耕作離れみたいなのが食い止められればいいかなと思っておりますけども。多分、印象ではなかなかそれが追いついてないですよっていうようなことなんだと思います。そういう補助であったりとか、県も一緒になってですけど、そういったところで、農業離れ、そういうものを一生懸命食い止めようと考えております。

【市長】 今、確か、10年後に地域の農地を誰がどう使うか計画する、目標地図っていうのを農家の皆さんと作っているかと思うんですが、もうまさに現場で汗を流している皆さんとして、いやいや行政違うんよと、そんなことするよりか、こうしてもろた方がいいよっていうことがあったら、言ってほしいんです。どうですかね。

【参加者】 難波地区の北条地域って、山もあった平地もあったり、いろんな方が実感として、親元就農半分、Iターンとかの新規就農は半分ぐらいいたりして、そういう人って、やっぱり柑橘がいいなって来られて、やっぱり田んぼでも柑橘に変換できるような条件のいいところにハウスを建ててみたいと思うんです。かたや、田んぼしかできん、野菜も何かできるかなっていうところがやっぱり後回しというか、どうしても野菜って初期投資、ハウスもいりますけど、玉ねぎしよるんですけど、やっぱり機械がいるんで、僕らも「玉ねぎ始めたら」とは言えないんですけども、果樹は造成地だったりとか、条件の良いところにハウスを建てて、新規の子が入っているんですけど、ちょっと不利なところっていうのが、なんか入っていきづらい感じになってるんで。畑も大体10アールなんで、畦畔(けいはん)全部を取っ払って1枚にしてくれたら効率も上がるんで、それやったらっていうのはあるかもしれないですけど。多分、それはかなりのコストだ

ったりするので、そういう形で難しいかな。

【市長】 不利なところですね。確かに分かります。皆さん柑橘でやりたいっていう、確かに、野菜とかよりかは柑橘の方が入りやすいのかな。ちょっと不利なところをどう入っていけるようにするか、ですかね。ちょっとこれ、皆さんでまた一緒に考えていければと思います。市はこう思うとか、他市の事例とかも。すいません、職員は手元にメモがあるんで、座りながらしゃべると思います。私はできるだけ皆さんの顔を見ながらしゃべりたいので、ちょっと立ってしゃべります。私、民間から行政の仕事に入って、民間と行政の大きな違いは、横展開がしやすいっていうことです。分かりやすく言うと、民間だと、「それ教えてくださいよ」とか、「それやらしてくださいよ、こっちで」みたいなことを言ったら、「いや、社外秘です」とか、「企業秘密です」とか、「教えるのはいいですけど、お金くださいよ」ってなります。でも、行政って横展開ができるんですよ。「どこどこ市役所さん、良い取り組みされてますよね、教えてください」って言ったら、教えてくれるんです。ですので、ちょっと他市の事例なんかも調べながら、皆さんと会話をしながら。もう今、端的に言うと、本当ちょっと条件の悪いところに、どう入っていつてもらえるのかで、ほったらかしにしといたら虫が発生したりとかで、荒れるのは早いけど、元に戻すのは余計に時間がかかったりする。より時間がかかったりするんで、何とか我々も、そこを解消していきたいと思うので、今日、我々の中で最適解がなかなか見つかりにくいかなと思いますけど、一緒に話しながら解決していければと思っています。よろしくお願いします。

【参加者】 中島から来ました。よろしくお願いします。先ほど、中島の方が同じような意見を言ったんですけど、私もそれで同じようなことになると思うんですが、すいません。松山市未来型果樹産地強化支援事業のことで、5年ぐらい前まで、みかんハウスは8月頃から資材が入ってたんですけど、今、11月から12月と遅くなっております。そのために、翌年の3月までに完了せないかんというのが、非常に困難になっておるといことで、希望者もちょっと減ってきてるんじゃないかと心配をしております。それで、事業予算の執行を早くして、以前のように資材の入荷を早めていただけませんか、というお願いです。被りますけど。

【市長】 教えてください、皆さん。8月から11月になったのは何でか、理由とかは聞かれとるんですか。昔は8月ぐらいに入ってきたんですよ。今頃は11月になっとんですよ。

【参加者】 それは県の事業に変わったからやないんですか。

【参加者】 県単になって、たぶん夏ぐらいが入札じゃないかなって。そこから業者が決定して、資材の配達ということになる。中島地区で早くても11月からですね。

【市長】 素朴な理由なんだけど、なんで愛媛県さん、そうやってずらしてるの。同じタイミングでやればいいじゃないですか。

【参加者】 僕らの的には、昔から市単と県単と両方あって、市単の方が便利だし早いからというんで、僕たち利用させていただいていました。それが、コロナのこととかあって、打ち切りになったんじゃないかと思うんですけど。僕、行政に疎いので、そのあたりよく分からないんですけど。県単しか使うものがなくなって。

【市長】 分かりました。松山市の方から、愛媛県さんの方に時期を変えてもらった方がいいみたいですよ、みたいなことも話ができますし。

【参加者】 もしくは無理かもしれませんが、3月末までじゃなくて、たとえば、梅雨時期までとか、年度またぐのは難しいとは思いますが、そうやってやっていただけると可能かなと現場は思います。

【市長】 なるほど。うなずいてる方も結構多いですね。分かりました。貴重な声として。ありがとうございます。

広報タイム①「家具転倒防止対策の必要性」

【参加者】 松山市の窪野町で農業しています。私は、新規就農して3年目になるんですけど、1年目は6反ほどで水稻から始めて、今2町ぐらい水稻やってるんですけど、今後、5年以内に10町以上はやりたいなっていう感覚があります。今、2町って言っても、一つにまとまってるわけじゃなくて、窪野で1町、その下の平野部で1町っていう感じでやってるんですけど、何が大変かっていうと、夏場にある水路掃除、井手掃除っていうんですけど、それを私は農地が点在しているので、5つの地域に分かれてやってるんですよ。一番問題なのが、現時点ではマンパワーでやってるんですよ。もう水路に流れ込んだ土とかを、私を含め高齢の方みんなで一斉に土を上げるってなってるんですけど、今後、10年20年を考えたときに、ぞっとするんですよ。というのは、私より上の方っていうのは、もう60以上、歳が80オーバーの人もいるんですけど、その人たちが現役を引退したときに、取り残された若者が、今後どうやって井手掃除していったらいいのかっていうのが、どこの地域でも多分一緒だと思うんですけど、そこがとても不安で、今後、5年に10町増やしたときに、うかつに手を出せないというか、1町集まったらやりますって言うんですけど、1反2反紹介されても、なかなか手をつけられないっていうのが今現状なんですよ。そこら辺をどう考えてるのかなっていうのを、ぜひお聞きしたいなと思います。

【市長】 分かりました。ちょっと私の方で答えさせていただこうと思います。窪野ですよ、三坂峠の下の。それこそ「窪野米」言うて、昔、お殿様の時代は献上しとったところですよ。一遍上人が修行したところで。もうそら美味しいお米ができるんですよ。よく分かります。それこそ私は今、安城寺っていうところに住んでるんですが、6月ぐらいだったか、5月ぐらいだったかな。町内の水路掃除するんでも大変です。ほんで、今のお話聞いて、そら5カ所も行きよったら大変だろうなと思います。今、でき

るだけ冒頭にお話をしました、もう農業が大変だというのは分かっているんで、例えば今、松山市ではドローンをできるだけ普及をさせようと、ドローンでうまく消毒ができるんだったらいいですね。この間は、松山市の久保田町だったかな。井関農機さんとベンチャーが一緒になって、アイガモのような機械を田んぼに入れといて、ガタガタとすると、水が濁るので雑草が生えにくいつていうやつですとか、池の端の雑草取るのも大変ですね。草刈り機を入れる。できるだけ入れやすいようにするとか、そういうのをやっているところですが、確かに、水路掃除を支援するっていうのはないと思います。確かに大変なのはよく分かります。何かできることがないかっていうのを、ちょっと考えさせてください。水路掃除で即答できるようなこと、何かありますか。

【農林水産施設整備課長】 今、高齢化が進んで農家をやめてしまう方、多いと思うんですけども、今、担い手不足を解消するために、「農振農用地区域」で、水路の掃除とか、農道の草刈りっていうので、人員の担い手というか、お手伝い、その費用として、現在31団体の方々が、多面的機能支払交付金というのがあるんですけども、そのあたりの費用を使って人を雇って、担い手の方が減らないような支援は、今のところやっています。全部で31団体で、旧松山市で5団体、旧北条市が19団体という形で、いろいろ計画も立てないかんですけども、そういう援助もありますので、またご利用していただければと思います。

【参加者】 現場で感じるのは、窪野はパイプラインを引っ張ったんで、蛇口をひねったら水がバーンで出てきていいんですけど、デメリットとしては、詰まったときに、どこが詰まっとなんか調べるのが、なかなか手間がかかって。水路はアナログなので、見たら、こっち上げたら通るわって、そういうメリットもあるんですよ。ただ、何が問題かっていうと、こちらは川沿いから出てくるんで、大雨とかのときに、土砂が一気に流れ込んでくる。それを毎回、地域の方が夜中に対処している。これをちょっと怠ると、貴重な水なので。ただ、対策として、その入ってくる場所に大きな溝があって、そこに土が流れていく。そこがいっぱいになったら、その土もまあ流れ込んでいくんですけど。ちょっと今、問題なのは、そこまで人で歩いていけないといけないんですよ。そこを重機で、ユンボが入れるってなれば、その分の人手が浮くんで、そういった解決方法があればいいなと思います。

【市長】 皆さん当てたりしないから安心してくださいね。重機があったら助かるのにな、みたいなことあります。やっぱ、そうか。

【参加者】 ここにお金が出たら、助かります。

【市長】 分かります。ちょっとそういう支援もできるのか、考えたいですね。

【参加者】 汎用機械なんかは、減反かなんかで、申請してもなかなか下りないんですよ。ユンボとか、ああいう農機関係は下りないので、県の方には汎用機械をどうにか使いたいと挙げてるんですけど、なかなか下りないので、そのあたりも言っていただけると。

【市長】 分かりました。皆さん、それは下りないというのは、ごめんなさいね、すごい皆さんからのリクエストが多くて、なかなか下りない。

【参加者】 そうじゃなくて、流用される恐れがあるかなんかいうんで、ユニボとかは最初から使わせてくれない。そういうのがあって、県の方にも、お願いはいろいろ言うんですけど、なかなかちょっと難しい面があるんで。

【市長】 なるほど。それ、素人考えですけど、流用されないように、使う場合に農業の担当課の職員が現場確認するとか、そういう形ではできるかもしれませんね。

【参加者】 例えば、水利組合がかんで、補助金で欲しいって言ってやってもなかなか、はねられる可能性があるらしいです。

【市長】 ありがとうございます。貴重な声を教えていただきました。

【参加者】 2つ目の「住み続けたい魅力あるまちへ」、ちょっと住み続けたいかどうかちょっと別として、「魅力あるまちへ」ということで、ちょっと意見させていただきます。先日、中島の方に、松山市出身で大阪の大学に通ってる映像関係の学生の方が来られて、中島の過疎を題材に、映画を1本取ったところなんです。今回、松山市さんにも、中島の方で、支所長さんに建物とかを使っていいっていう許可を快く受けていただいて、多分、これから先にはなと思うんですけど、松山市のシティプロモーション推進課さんの方にも、広報活動をやっていたらという話で学生さんからお聞きしています。市長、今度のトライアスロン来られますかね。

【市長】 行きます。

【参加者】 私、実行委員としてお待ちしております。それで、トライアスロンの中でも、中島産柑橘を使ったジュースを試飲というか、無料で、来てくれた方に飲んでいただいてPRするっていう活動も、中島の女性部の方でやっております。ちょっと長くなるんですけども、SNSとか、これから活用して、魅力あるまちへっていう部分で、松山市さんの方には、これからもっとどんどんPR活動にご協力いただいて、多分、中島だけじゃないと思うんですよ。松山市全体で人口が減ってると思うんで、広報活動の方にもっと力を入れていただいて、もっと人口の方を増やしていただけたらなと思っております。

【市長】 出るかな。松山市のYouTubeチャンネル出せますかね。結構、島は重点的にやってるんですよ。26回シリーズだったかな。中島諸島、忽那7島と、シリーズで動画を作って、積極的に発信してます。こうやって、松山市のYouTubeチャンネルがあるんですが、またお時間あるときに見ていただけたらと思います。

【市長】 そうだ。ちょっと質問が一巡したみたいなんで、ここで、私の東京の大田市場での紅まどんなのトップセールスをちょっと見ていただけたらと思います。元々、アナウンサーでしたでしょう。ですから、持ち味はやっぱ生かさないけんですよね。なぜ

行くのかというと、皆さんにも自信持ってもらいたいんですけど、こうやってしゃべっていると、目の前には結構デパートのバイヤーさんとかがいるんですよ。そもそも、紅まどんとか、せとかとか、カラマンダリンっていうのは、どういうものかっていうのを聞きに来てます。おかげで、これまでに27回も東京の大田市場でやってるので、松山市長は結構コンパクトに分かりやすくしゃべる人ねっていうのは、関東圏のデパートのバイヤーさんとかには知られてるようなので、結構来てます。私は皆さんの二つの「く」、「苦労」と「工夫」を知ってもらって、言うたら、いい値段つけてもらいたいんです。「うちはできるだけ、あの紅まどんな扱いたい」って結構言われるんですよ。デパートさん以外のスーパーさんからも言われるんですけど、関係する方からは「紅まどんなもって作ってくださいよ」って言われます。そんな状況です。ですので、コロナのときはできなかったですけど、実際に試食してもらって、味を知ってもらってっていう形です。ちょっとこれ、3分30秒ぐらい流れますので、それを見ていただいて、最後、ちょっと思いを言わせてもらったらと思います。よろしくお願いします。

トップセールス動画

【市長】 すいません。放送局みたいな立派な機材を使ってるわけではないので、ちょっと音が聞こえにくかったかと思います。私の方の苦労は、朝早いんですよ、大田市場でのセールスって。あんまり、なんぼでも時間くれるわけじゃないんです。なので、3分ぐらいにまとめてくださいって言われてるので。他の、紅まどんな以外の方もおられますが、ちょっと紅まどんなで言わせてもらおうと、よその高いいちごとか、高いメロンとかと競争しているわけです。そこに負けんようにしゃべるわけです。大体、他のところの組合長さんみたいな方がおいでで、「うちのは美味しいです、どうぞよろしくお願いします」っていう感じなんですけど、それだったらやっぱ伝わらないんで、紙芝居方式で、写真を撮ったり、市役所の中にイラストが上手な人がいるんで、その人に描いてもらったりしながらやってます。朝早いんで、結構、頭回らないんですけど、何とか頭を回しながらしゃべってるっていう感じです。いつも、紅まどんな、せとか、カラマンダリンとかをアピールした後は、ずらっと試食の長い行列ができるので、こういう形でデパートなどにいい値段で取引されている。千疋屋（せんびきや）さんとかね、ありますよね。そういうところに扱っていただけてるっていうことになります。これ、結びの話にしますが、私は本当に農家の皆さん尊敬しています。今、本当に暑くなって、作りにくいんですよね。作りにくいんだけど、ある意味工場ですよ。ロットそろえとかないかん、数そろえておかないかん。市場関係者の方々からは、数そろえてくださいね、品質そろえてくださいねって言われる。それを、この気象条件が非常に暑くなっている中で、雨が降ったり降らんかったりする中で作っている皆さんのことを尊敬しています。本当に大変だと思う。だから、それを受けて一生懸命売りに行こうと思うんです。皆さ

んがお困りのところがあったら、できるだけ改善したいと思って、このタウンミーティングやってるんです。ですので、15時5分になりました。まだまだ皆さん思ってることあると思いますんで、遠慮なく言ってもらったと思います。お願いします。

【参加者】 桑原地区で農業をやっています。よろしくお願いします。水利組合もやってるんですけども、桑原地区は当然、市街化区域なんで、農家が増える要素は基本的にはない地域なんですけども、多分、これは市街化地区はほとんどそうだと思うんですけども、一番うちの水利組合として問題となっているところが、水路の管理、農道管理、それプラス、今、集中豪雨が入ってくるときに、当然、水門を閉めに行くっていう。桑原地区は、ご存じだと思うんですけども、溝辺や市之井手というところからも、水門を開けて水を引っ張ってるんですけど、まずは大雨が降ると、門を閉めて入ってこないようにする。それを怠ると、当然、石手川から大量の水が入ってくる。市街化区域なんで、農地はないんで、ほとんどの雨水が全部川に流れてくる。地面も吸い込まないので、非常にすぐ下の方が溢れるっていう状況なんです。この水門のところを手動でやってるんですけども、これができたら、例えば今、ネットがあるので、まずそこが見えたり、ボタンで自動で閉まるようなシステムができれば、非常に農家の負担は減ると思うんですね。今、桑原地区で実際に農業で生計してるのは3戸しかないんですけども、それもほとんど高齢化してきてるんで、もう多分10年後とか近い将来、農家がいなくなった場合に、この水路の管理をどうするんだというのは非常に心配してると思うんで、どう考えているのか、お聞かせいただければ。お願いします。

【農林水産施設整備課長】 今後の市街化区域の田んぼというか、水路ですよ。その辺りで、今は市街化区域だと、改修するのに地元負担金がかかりいるとは思いますが、農家、市街化区域が減っていくのは、何となく見えてはくるんですけども、その後っていいますと、もう用途廃止っていうか、水路の細かい枝があるとは思いますが、そのあたりを廃止して行って、もう使わなくして大川に流すっていうか、そういうふうな形になっていくんじゃないかなとは思いますが。

【参加者】 水路を逆に廃止すると、そこに来てた水が川に流れて重なって、あふれると思うんですけど。それで浸水する形になると思うんですけど。

【農林水産施設整備課長】 メインの水路があるとは思いますが。一番最後に落とす、その水路ですよ。その辺りをちょっと少し考えないかんとは思いますが。

【市長】 私の方からちょっと。私の記憶だと、松山大学の御幸キャンパスのところ、横に大川って流れてるんですけど、ここで大学さん、愛媛大学さんだったかな。センサーをつけて、モニターで監視できるっていう仕組みをやりだしたのを、2年か3年前ぐらいだったと記憶しています。先ほど申し上げたように、ドローンであったり、池の端の斜面の草刈りであったり、アイガモ農法のことであったり、できるだけDXを導入して、皆さんの負担を軽くできないかっていうのが、松山市の大きな農業の方向性なので、

そういったものが活用できないのかっていうのをちょっと考えさせてください。それができたら、ちょっと楽になりますよね。一つ言うと、これ理想型なんですけど、松山で困ってることは、おそらく全国で困ってるんですよ。全国の農業されてる方が。松山で良い事例ができれば、それこそ横展開できるので、国でも農業者の方が助かるっていうことになるので、できるだけ、道後がそうであったように、ピンチをチャンスにするように、新しい技術を使って、何かいい形で皆さんを支援できないか、ちょっと考えてみたいと思います。よろしくお願いします。

【参加者】 伊台で農業をしています。昨年でしたか、伊台でタウンミーティングしていただいたときに、通学路の白線とかを整備していただくようにって言ったのをさせていただいて、息子も今年通っているんですけど、その通学路で、また猿やイノシシが出てですね、ちょっと危なくて引き返して、また親が改めて連れて行くということが実際に起きています。鳥獣害のことについてなんですけど、やっぱり、農家自身で銃を持ってというのも、もちろん推進されていて、そういうふうにしていく農家もいるんですけど、実際に果実が熟れてくると、来る獣っていうのは、やっぱりちょうど収穫時期にもなるので、獣を待つというのと、収穫や荷造りをするというのがどうしても被ってしまって、農家自身がなかなか獣の銃を持っていても、獣の相手をしたり、正直、給料が出ない中で、いつ来るか分からない獣を見張りながら、自分たちの収穫もしなければならぬというジレンマを抱えていると思うんですけど。なんで、なかなか極端なことを言うと思うんですけど、例えば市の職員さんとかに免許を持っていたって、撃っていただくとか、ちょっと今までにないことをしていかないと、多分、僕らが頼りにしている地域の猟友会の方々も、もう本当に年齢が上がってきていて、皆が要望を出す中で、腰が痛くて足が痛くて。お世話になってる猟友会の人たちも、80代の方もいますし、なかなかその中で、自分たちも実際に銃を持って獣を待つ、来なかったら来なかったで、ずっと待ちぼうけにはなるんですけど。でも、果物はやっぱり収穫の時期とかでってなるんで、ちょっと何か、今までにない獣対策を。もちろんこれからも、農家に、罠とかピストルの推進も続けていけばいいと思うんですけど、何か今までにないことをちょっと考えていただければと思って。

【市長】 分かりました。逆に、今まで松山市内のいくつかの地区でモンキードッグを導入して、愛媛には学校がないので、徳島で勉強してもらって、もちろんワンちゃんが走っていきますから、「何でうちの畑に勝手に入ってきてとんど、みかん畑に入ってきてとんど」、みたいなことになってはいけないので、地区の方の合意も得て、モンキードッグに活躍してもらってる例もありました。今、地区にモンキードッグはいますか。

【参加者】 実川地区の農家さんで、モンキードッグを入れてて、結局、そのモンキードッグで追わえているところに猟友会の人を呼んできている。入れてるって言ったら、その1件が入れてるのを聞いたくらいで、あとの人がモンキードッグを入れているのは、

ちょっと聞いてないです。

【市長】 なるほど、なるほど。ワンちゃんもこれ、難しいところが。ワンちゃんも寿命があるので、やっぱり高齢化してくると、どうしても追わなくなったりするところもあるんですよね。また、猿は賢いので、なかなか皆さん難渋しているところがあります。確かに、市の職員がそういう駆除チームみたいなのを作ってやるっていうのも、一つの方法だと思います。ちょっとこれ、どこでも困ってるんでね。最適解っていうのは、なかなか出ないのかもしれないですけども、考えてみたいと思います。ありがとうございます。そうなんです。さっきの最初の3つ目のパワーポイント出せますかね。駆除してきた件数ですね。ちょっとここで、これなんです。それこそ、額としてはもうだいぶ、1億円から駆除対策予算は増やしてきてるんだけど、じゃあ松山でイノシシが全然おらんったですか、猿がおらんったですかって言ったら、そうではないですよ。私たちもやっぱり家計と一緒に、皆さんの税金でお仕事をさせていただいてるんですけど、やっぱり限られた予算の中でやってるので、どこかが増えたら、どこか削らないけんです。そういう中で、なかなかこう、猪がおらんりましたか、猿がおらんりましたかっていうことにはなっていないんで、私たちも非常に悩みながら、愛媛大学の農学部には専門家の方がいて、そういう方と連携をしながら、また皆さんと連携をしながらやってきてるんですけど、なかなか難しいなと思ってるのが実感です。そこでうつむくんじゃなくて、何か新しい方法はないだろうかって考えるのは、やっぱり私たちの仕事だと思います。逃げるわけじゃないですよ。また皆さんと一緒に、何かいい方法を考えていければと思いますんで、よろしくお願いします。

広報タイム②「家庭内備蓄について」

【参加者】 北条の団体に所属しています。本日は、よろしくお願いします。まず、ちょっと忘れないうちに言っておきたいことがあって、こういうタウンミーティングを、来年とかも、またやってくれたりはしないかなっていうのを。皆さんもちょっと言いたいこと、多分あると思うんですけど、なかなかぱつと言えないし、みたいなのがあって、なかなかあれなんですけど。こういうのって続けてないと、多分、言いたいことも出てこないとも思いますし。農業っていう職業自体が、長々とずっと持続してやっていくようなものなので、タウンミーティングも、農家と一緒にやってほしいなっていうのがお願いします。というのと、空き家とかについてになるんですけど、農家の新規就農の方とかもそうなんです。結局、家がないっていう問題になってまして。空き家の活用と移住促進を結びつけて、定住できつつ、担い手の確保。もう移住ではなく、定住できるような状態にしてほしいっていうのがあります。団体の中のプロジェクトとして、そういう空き家のやつとかもやってはきているんですけど、なかなか空き家って動きづらいような状況が、その空き家の持ち主によっていろいろあって、それを行政さんができるこ

ととか、できないこととか諸々あると思うんですが、ちょっとできる範囲で何かアプローチとか、どういうのがあるかなっていうのをちょっとお答えしてほしいなと思います。よろしくお願いします。

【市長】 すいません。時間のことも気にしていただいて、ありがとうございます。さまま松山市が取り組んでいる事柄について、ちょっと述べさせていただいたらと思うんですが、使われない農地は、松山市のホームページで情報発信するなど、使いたい人と農地を持つ人とのマッチングにつなげているところです。水田を借りた農家には、農業を続けていただく奨励金もお渡ししています。また、今年度からは耕作放棄地を再生する団体の活動費の一部を支援しています。また、空き家とか古民家とか空き店舗の有効活用も進めております。ホームページに市内の空き家情報を掲載する「空き家バンク」、また、三津浜地区に特化した「町家バンク」、そして、島しょ部に特化した「離島の空き家」で、いわゆる借りたい人と貸したい人をマッチングして、移住につなげているところです。これまでに、住居だけではなくて、飲食や雑貨のお店にも活用され、地域のにぎわいを生み出しているところです。実数がありますけれども、「全国空き家・空き地バンク」で21件のマッチング、三津浜の「町家バンク」で128件のマッチング、「離島の空き家」で173件のマッチングということになっています。四国4県でいうと、やっぱり移住は、愛媛県が一番多いですね。他の県は何百人台なんですけど、愛媛県は何千人台です。そのうち約半分が松山で、約3千人の移住の方が来られているという状況です。分かります。うちも北条、古い家ですから。それこそ大体、空き家の話で言うと、「いや、いつかね、息子や娘がね、帰ってくるかなと思とんじやけど」とか、「貸してもええんやけど、実は仏壇があるんよ」とか。仏壇があつたら、なかなか借りにくかったりしますよね。そんなことで、なかなかちょっとマッチングが進まないっていうところがあるんですけども、できるだけ進めようということで、こういう形でやっています。これもやっぱり、今日も教えていただいた時期の問題とか、皆さんの現場の声を聞かせていただいたんで、いやいや、市長あのね、こうやってもらった方がもっと進むんよっていうことがあつたら、遠慮なく言っていただいたらと思います。我々も本当、空き家も解消できて、耕作放棄地も解消できるっていうのは本当に理想ですので、進めていきたいと思いますんで、どうぞよろしくお願いします。

【参加者】 浮穴地区で農業してます。トップセールスの話、いろいろしてもらって、僕も前職では農協の指導員をしてまして、1回、タウンミーティングも参加させてもらったんですけど。僕は今はもう柑橘ではないんですけど、野菜を農協出荷メインで、市場も出してはおるんですけど。地産地消、皆さんのイメージで言うと、産直なり、生産者コーナーが思い浮かぶかなと思うんですけど、ある程度の規模になってくると、袋詰めまでして、そういうとこに売るっていうのは、なかなか難しいので、ぱっと箱に入れて出す、農協、市場を頼るようになるんですけど、市場はなかなか単価がつかない。個

人で出すとつかないっていうのが現状です。僕自身は冬のナスっていうことで、愛媛県ではなかなかいいものを作っておるんですけど、主な単価はそんなに良くない。他に出しよる冬場のキャベツとか見ても、なかなか単価がいかんねっていう話をよく聞くんで、やっぱり市場に出したのも、地産地消、松山で消費するっていう面で何か、中央卸売市場なんで、松山市の方も多少何かあると思うんですけど、そういう形で地産地消の方を進めてもらったり、ちょうど今、道後なんかも盛り上がってインバウンドなり、観光客も増えておるんで、そういうところでも松山のものを使ってもらえるように、何かしてもらったらなと思います。

【農林水産振興課長】 地産地消の取り組みということでございますけども、いろいろ私たちがやっている「まつやま農林水産まつり」で地元の産品を出していただいて、そこでPRをしていただいたことで、後の消費購買につなげていただくというような取り組みをしております。まだまだいろんな工夫ができるかと思えますんで、それこそ、こういうのがあったらいいなというようなことがございましたら、またご相談いただけたらと思います。

【市長】 インスタとかSNSとかはやられていますか。

【参加者】 やってないです。今の農業のモデル自体が、やっぱり昔のやり方よりかは、もう農家自身もバイヤーというか、宣伝マンにならんといかんなつとるとというのが、僕自身はちょっと、うーんって思うところがあって。やっぱり百姓は作ることが基本やと思うんで。売るプロの人が市場にはおるわけやから、販売はそういうところに頑張ってもらって、売る方は何とかそっちでやってもらいたいっていうのが、これは個人的なことですけど。なので、あんまり個人出品とか、そういったことはやってないです。

【市長】 なるほど、分かりました。もうそれも、本当、貴重なご意見だと思います。今、改めて、どこまでやったらいいんだろうっていうのはありますよね。さっきね、それこそ広報タイムのときに、ちょっと今日の見直しとかもできるんで、うちのばあさんの話、93歳まで畑に出続けたばあさんの話をしましたけど、ばあさんの温州みかん、あえて「ばあさん」といいますけど、温州みかん、伊予柑やりよって、ほんでキウイが値がええぞってなったときに、キウイやりだしたんですよ。ほんなら、みんなやりだして、ほんで値段がゴーンと落ちたことがあって。やっぱり、ある程度の品質を保つっていうのは、もう東京の東京青果さん、東一さんといいますけど、とかとお話するのに、やっぱり品質はやっぱ大事ですよ。品質が悪かったら、もういっぺんでもドーンとブランド力って下がりますから、品質大事にしてくださいね、なんてよく言われるんですけども、品質のこと。まさにおっしゃった、作るプロなので、PRのことまでやらんのかんのかって言ったら、確かにそうですよね。ですので、そこはちょっとなかなか大変だろうなっていうのは思いました。今日、市場に来ていただけてますけども、市場も計画的に、やたらめったらやっていったら、お金は計画的にやっていかんといかんですよ。ですから、この市場の将来像もふまえながら、やっていかなくちやいけない。コー

ルドチェーンなんて言いますけれども、やっていかなくちやいけないと思います。ちょっと前になっちゃうんですけど、福岡の市場が良い取り組みをされているので、福岡に私も勉強に行かせていただいたりしました。この市場のことも含めながら、考えていきたいと思います。これからも、いろんな方向で皆さんを支援することを考えていきたいと思います。ちょっと時間が来ましたが、重ねてになります。役所に言うたってどうせ変わらない、ではなくて、まさに農水の担当課も設けてますんで、皆さんと市町村、県、国とあったら、皆さん国の役所に行くことはあんまりないと思います。やっぱり戸籍とか住民票で市に来られる方が多いと思いますんで、どうぞ敷居を高くすることなく、遠慮なく言っていただきたらと思います。すぐできること、ちょっと時間がかかること、なかなか難しいこと、あると思いますけども、できるだけ皆さんに寄り添ってやっていきたいと思いますんで、どうぞよろしくお願いします。

【市長】 時間が参りました。発言できなかった方も、ちょっと恥ずかしいなっていう方もいらっしやったかと思いますが、また遠慮なく言っていただきたらと思います。最後、結びの話といたします。今日、ちょっと言っておかないかんことがあるんです。人手不足じゃないですか。もう本当、収穫もいつせいになりますしね。ゆっくりなってくれたらいいのに、ワーッととなりますし。興居島だったですね。興居島でアルバイトを求める農家さんと、農業をお手伝いする方をマッチングする無料のアプリを活用しております。これまでの取り組みによって、143件がマッチングして、みかん採りをするなど、農業を手伝って、農家さんから農繁期に、若者の人手が増えてよかったなどの声をいただいています。このアプリ、他の地区でもアルバイト募集することができますので、今日お帰りの際にお渡しする封筒に、アプリをダウンロードする2次元コードが付いたチラシを入れておりますので、それもまた活用していただきたらと思います。それとあと一つ、言っておかないといけないなと思ったのが、皆さんの方から、40歳を超える人は駄目なのか、みたいな話があります。これは、年齢要件の見直しもできますので、皆さんと一緒に、会長さんとか役員さんとも一緒にですね、私たち農水の方と、40歳を超えたら駄目なんかという話については、要件の緩和も検討していきたいと思いますので、一緒に話し合っていければと思います。あれこれ申し上げました。本当に、心から、心から皆さんのことを尊敬しています。農家さんと話をすると、私も南海放送という会社で20年働いてきて、今、市役所っていう組織の中で働いてまして、農家の方と話をすると、こんなこと言われるんです。「上司から嫌なこと言われんでええわい」なんて。「わし、会社員しよったんやけど、辞めてな。上司からいらんこと言われんでええわい」っていうふうに言われます。いやいや、もう皆さんも、お父さんが上司だったり、お母さんが上司だったりする方もいらっしやるかもしれないけども、やっぱり自然と向き合って生活するっていうのは、大変なこともあるけど、やっぱりいいと思うんです。やっぱり農は食だし、食は体に入っていくもんだから、とっても大事なことだと思いま

す。そういう大事な仕事を担っている皆さんなんで、これからもいろんな話をしながら進めていきたいと思いますんで、どうぞこれからもよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

—了—